

本響友会報(1963.12.1 発行)は、紙面サイズの関係でレイアウトがオリジナルから変更しています。

1 DEC. 1963

(1)

関西学院大学交響楽団

オ二十四回定期演奏会

十二月二日(月)

大阪毎日ホール

グルック…アウリスのイフゲニア―序曲―、ベートウヴェン…

交響曲オ九番「合唱」。

京都大学交響楽団

オ九十四回定期演奏会

十二月十六日(月)

大阪産経ホール

十二月十七日(火)

京都府立第一ホール

ワグナー…ニールンベルグの

名歌手―前奏曲―、ヴィオッチェ

…ヴァイオリン協奏曲オ二十二番

ベートウヴェン…交響曲オ三番「

英雄」

# 響友会報

発行者 神戸市灘区六甲台町

神戸大学響友会

同志社大学交響楽団

オ三十五回定期演奏会

十二月二十日(金)

京都府立第一ホール

シューベルト…交響曲オ七番。ベ

ートウヴェン…ヴァイオリン協奏

曲。ワグナー…ニールンベルグ

の名歌手―前奏曲―。

神戸大学グリーンクラブ

定期演奏会

十二月五日(木)

神戸国際会館

「未婚」より大手拓次の三つの詩

ロシア民謡。ドイツ合唱曲。他

神戸大学マンドリンクラブ

オ八回定期演奏会

十二月九日(月)

神戸国際会館

海の組曲。童謡ファンタジー。他

## 今年も盛大に！！

十二月十日(火)第十三回定期演奏会

指揮者の手がさっと上がる。一瞬の緊張と純粋な感情の高揚！それはやがて音となって会場のすみずみに広がってゆく。定期演奏会が今年もやってきた。定期演奏会―オの先聲なら誰でも、この言葉に過ぎ去った良き学生時代とあのステージの緊張とそれにつながる数々の思い出をありありとまぶたに浮かべられるに違いない。あの純粋な感激は今年も再現されようとしている。オ十三回定期演奏会は十二月十日(火)である。

我々現役部員にとって定期は一年間の総決算である。それは四月以来たくわえられてきた努力と活動のエネルギーが、どっと只一日の湖に流れ込む日である。そしてその湖から再び静かな反省の地下水が流れ出し、翌年に受け継がれてゆく日である。今年で定期はオ十三回を迎えた。その基礎の地固めも終えて神大オケ独特の持味を生み出す湖となつてほしいものである。



本年夏合宿の名古屋演奏会

それでは今年の定期の内容を展望してみよう。  
プログラムは  
(1)ドヴォルザーク 交響曲オ九番  
「新世界より」

指 揮 者 の 手 が さ っ と 上 が る 。 一 瞬 の 緊 張 と 純 粋 な 情 感 の 高 揚 ！  
そ れ は や が て 音 と な っ て 会 場 の す み ず み に 広 が っ て ゆ く 。 定 期 演 奏 会 が 今 年 も や っ て き た 。 定 期 演 奏 会 ― オ の 先 聲 な ら 誰 で も 、 こ の 言 葉 に 過 ぎ 去 っ た 良 き 学 生 時 代 と あ の ス テ ー ジ の 緊 張 と そ れ に つ な ぐ ら る 数 々 の 思 い 出 を あ り あ り と ま ぶ た に 浮 か べ ら れ る に 違 い ない 。 あ の 純 粋 な 感 激 は 今 年 も 再 現 さ れ よ う と し て い る 。  
オ 十 三 回 定 期 演 奏 会 は 十 二 月 十 日 ( 火 ) だ る 。  
我 々 現 役 部 員 に と っ て 定 期 は 一 年 間 の 総 決 算 だ る 。 そ れ は 四 月 以 来 た く わ え ら れ て き た 努 力 と 活 動 の エ ネ ルギ ー が 、 ど っ と 只 一 日 の 湖 に 流 れ 込 む 日 だ る 。 そ し て そ の 湖 か ら 再 び 静 かな 反 省 の 地 下 水 が 流 れ 出 し 、 翌 年 に 受 け 継 が れ て ゆ く 日 だ る 。 今 年 で 定 期 は オ 十 三 回 を 迎 え た 。 そ の 基 礎 の 地 固 め も 終 え て 神 大 オ ケ 独 特 の 持 味 を 生 み 出 す 湖 と な っ て ほ し い も の だ る 。

オ十三回定期演奏会は十二月十日(火)である。  
(2)チャイコフスキー ヴァイオリン協奏曲  
(3)ガーシュイン ラプソディー・イン・ブルー  
(4)モーツァルト 「後宮よりの逃走」序曲  
の四曲である。(1)の「新世界より」は今までに、オ七回定期(一九五七年)に田中先聲の指揮で演奏された他、オ五回旧三商大演奏会(一九五九)や、卒演(一九六二)等で演奏されており、先輩の皆様にとって何かと思いの多い曲であろう。我々もポピュラーなこの大曲を今までの以上に立派な演奏にせんものとはりきっている。特別の楽器であるコルアンダレは音大の学生、信川氏

ヴァイオリン  
坂倉邦子さん 東芸大卒  
ピアノ 原久美子さん 神大

続いて今年の定期の指揮者、ソリストをプロフィールしてみると松永指揮者は関西アマチュアオケで名の通っていた先代の中島先聲のあとを受け継いだ人で、選曲にも意欲的でさきに述べた如き大曲に正面から取り組んでの努力は大きい。練習時も彼独特の説得力で皆を引っ張ってゆく。これからの彼の最も充実、円熟した時期となるだろう。

今回新しく権をとる青柳君は非常に音感が鋭く、音楽性が豊かで、ヴァイオリンソリストの坂倉邦子さんは神戸の御出身、東京芸大附属

高校から芸大音楽学部ヴァイオリン科を今春卒業された方。その間、須藤澄(故)、林竜作、多久興の諸氏に師事され、現在独自ソリストを目指しておられる。すでに今年八月の名古屋合宿演奏会で同じチャイコフスキーのオ一楽章を協奏していただいたが、彼地でも大好評をえた。神戸オケにとって得難いソリストである。

ガーシュインのピアノソロを受けもつ原久美子さんは神大オケ一年のメンバーであり、神戸高校出身。高校の時すでにこの曲を演奏した経験をもっている。近代約センスの持主

で、それが音楽にも現われている。

### 一人でも多くの人に

#### この結晶を

最後に今回の定期演奏会をマネー  
ジメントの面から展望してみよう。  
会場である国際会館は四月に予約さ  
れた。合宿が済むと九月にプログラ  
ム作成、広告取り、入場券配布、P  
・R、印刷といった各委員が決めら  
れ、前期試験にもかかわらず、そ  
れらの委員会は活発に有機的な活動  
を開始した。部員の一大丸となつての  
努力が演奏会日まで続く。その中で  
も特に苦勞の多かったのは広告取り  
や入場券配布、それに税務関係のマ  
ネージメントなどであった。一方楽  
譜係は大量の楽譜の作成に必死であ  
る。また一方ではプログラムの印刷  
に走りまわっている。(なおここで  
付加えると  
今年のプロ  
グラム、入  
場券、ポス  
ターのデザ  
インは京美  
大卒の坂本  
邦男氏の手  
によるもの  
である。)   
そればかり  
ではない、  
同時に練習も当然しなければなら  
ない。それを克服した結果がこの定期  
演奏会である。定期演奏会はまさに

一つの結晶である。我々現役部員  
は諸先輩のされた体験を今まさに  
体験しようとしている。今、現役  
部員は券を売るのに忙しい。一人  
でも多くの人に聞いてもらいたい  
というのが演奏をする者の願いで  
ある。

今年も定期がやってきた。  
指揮棒が今まさにおろされよう  
としている……。(編集S)

### OBチームが優勝

#### ソフトボール大会

十一月二十四日(日)、ここ三  
三年中止されていたソフトボール  
大会が久し振りに開催された。  
当日は、OB、一年、二年、四  
年チームに別れ、三年生は任意に  
各チームに属してトーナメント戦  
を行なったが、優勝候補の四年チ  
ーム、二年チームを破ったOBチ  
ームが賞品を一手にした。

当日は朝十時より練習を開始。  
久しくお見えにならなかった多数  
の先輩方も御出席になり、一同で  
屋敷、午後二時半より、教育学部  
附中グラウンドで行なわれたもの  
であるが、六十人近い先輩、現役が  
秋晴れの一日を大いに楽しみ、有  
意義な一日であった。

原稿募集

左記の要領で本紙へ  
の投稿をお待ちします

一、内容、響友会今昔。  
一、量、用紙三枚程度  
一、締切、特になし。  
一、送り先  
神戸市灘区六甲大町  
神戸大学交響楽団  
響友会係

## 学業とのバランスを失せぬよう

響友会々長 山 中 直 一

『響友会報』が発刊されるといふ。私達が神戸・高商時代に播いたひそやかな種子が、今日の神大オケストラと、立派に成長を遂げて、更にこういふ機関紙まで持つことになったのだから、誠に慶賀に堪えない。  
諸君がクラブ活動に於て、大学らしく、立体的に活動範囲を拡げていく姿は頼もしいと申し上げる

外ない。この機関誌を通じて、神大オケのPRに、音楽評論に、愈々華々しい文化活動が開始されるのだから、どうか有終の美を全うしてほしいと思う。  
オケの技術にしても、あれ以上を望むなら、学業の方へだんだん喰い込む外ないだろうと思われる程の打込み方をする諸君の事だ、学業とのバランスを失せぬよう、という苦言を加えて、お祝いを申し上げます。

# まずまず成功

## 夏期名古屋合宿

毎年、夏季休暇に入れば、強化練習をかねて地方に出かけ、合宿並びに演奏会をやる慣習がここ二、三年続いている。昨年は小倉、福岡に二つのステージを持ったが今年も名古屋に足をのぼした。名古屋は想像通り蒸し暑く、オケメン一同、暑さのためグチがそろそろ出たが、宿所の名古屋学生会館にバスで運ばれやと着いた。

しかし、その宿所なるものは苦笑せざるを得ない程の粗末さで、どうみても清潔だとは言いがたいものであったが、部屋を一同力を合わせて掃除した後は、なんとなくホツとした。それにしても食事の粗末さには



写真は合宿中の練習

閉口した。しかし我々プロレタリアをもって誇る学生には何よりである合宿費の安さの為、きわだって文句も言えない

かった。まあなんとか、ブツブツ言いながらも全員が、朝、昼、晩の食事以外は全くの練習に、各自黙々と従っていたのは、やはり音楽好きでなければできないことであろう。門限の時間を気にながら急いでフロアを出、その後行きずりのかき氷屋に入って食ったセンジ(関西ではみそれともいうべきもの)のす

## 行き悩む練習場

ほしい部屋

来年には創立五〇周年を迎える神戸大学交響楽団も響友会という強力な先輩の会をもってはいるがすべての面が発展の段階にあるのではなく、むしろ停滞の状態と見るべき点が多存在する。

ある時代に生じてきた悩み、問題は恐らく完全には解決され得ないために、表面的なつくりの結果、段々と身動きのとれない状態に入っている。現在の神大オケの問題点にふれてみよう。

オーケストラに於て音程の確かな品質のそろった楽器をそろえたい事は当然の事であるが、現在では一年

ばらしい味は今も舌の奥で覚えていく程である。このような、火ならぬ、汗の通し強化練習の後、八月九日、名古屋市立公会堂で待望の演奏会を開いた。演奏曲目は、

- ベートーベン「交響曲八番」
- チャイコフスキー「バイオリンコンチエルト」
- グリーク「ペールギュント組曲」
- シュトラウス「青きドナウ」

であった。ステージのまわりに花を飾ったり力を合わせて反響板を取り付けたり苦労した甲斐あってか、概して評判はよかった。

最近購入できた楽器は、オーボエファゴット、ホルン等であるが、これらも先輩の援助のおかげと云えよう。次に練習場の問題であるが、オーケストラのような団体になればなかなか適当な練習場は見つからない。過去に於ても数回扱っているが最近又、練習場が問題になってきた。

現在教育学部の一室に楽器の保管をしているが、そこはあくまで一時的なものであり、借りる時の条件で他に見つかれば行かねばならない事、その他、管理の不行届で音

誇り高き学生楽士にもなり、楽屋大工にもなった訳である。今思うにこの合宿は実に良かったが、なにせ学生のやること充分に満足する位にできなくてそれなりによくまあ無茶をやったものだら、苦策をともなった満足感があるにはある。

## 大きい先輩の御援助

しかしそれにして、名古屋の先輩の皆様の力添えがなければ、決して演奏会はもち得なかつたであろう。特に村井澄也氏、水谷安平氏、田中清三郎氏、藤田貴久氏、四本喬介氏といった当オケの先輩諸氏には、実によくお世話願った。

## 部屋

その上音が自由に使用できる部屋がない事は何といつても致命的な欠点である。この事が精神的に与える影響はかなり大きなものである。更に部員相互間に打ちとける場がない事は明らかにクラブに対しての気持も活気あるものでなくなる。

更に学生会館が一時は、つくられたという事で大いに期待したが、またしても先の話となった。以上、大きな問題にふれてみたがこれらが簡単に解決されるとは考えられない。いつになっても問題はな

## この一年

ここに昭和三十八年の主なオケ活動を列挙してみるが、これらの対外的な演奏会だけは、オケの主活動となつてはならないのである。このようなものたちが、表面には表われない、各部員の心の内部に醸成されるものを良い方向にもつていく。そういうためのオケ全体の活動が主活動となるべきであらう。従つてこれらの演奏会はその象徴としてみるべきものである。

- 三月二十二日
- オ13回卒業演奏会(国際会館)
- これは、毎年慣例となつて教育学部音楽科との合同演奏会である。
- 曲目 ロッシーニ「セミラミール」
- デ序曲
- アンダーソン「シンコペイテッド・クロック」
- ウエーバー「コンチエルト・シュテック」等

- 四月十二日
- 入学式でのクラブ紹介
- 「本校講堂」
- 曲目「ペルシヤの市場にて」等

- 五月十五日
- 大学祭(開学記念祭)
- 曲目 モーツァルト「クラリネット・コンチエルト」
- ハチャトウリアン「剣の舞」等

- 六月十七日
- 旧三商大演奏会(国際会館)
- 年中行事の一つで、今年も神戸で行なわれたが、三つの大学が寄り集まるというこのために、運営面、練習面の困難が生じ、一応中止という事になった。
- 曲目 サン・サーンス「バックナール」
- ブルック「バイオリン協奏曲」
- リスト「ハンガリアン狂詩曲二番」

- 八月九日
- 名古屋にて演奏会
- 合宿のしめくりとして毎年行なつて
- 曲目 ベートーヴェン「交響曲八番」
- チャイコフスキー「バイオリン協奏曲」
- シュトラウス「美しき青きドナウ」
- グリーク「ペールギュント組曲」

## 伝統の力

今春、有能なる先輩を多数送り出したとき、かつて多数の先輩を輩出したときほどの不安と焦燥を感じなかったのは事実である。何故あれほど巨大で、エネルギーシユな学年を手放しておきながら、残されたものはそれほど苦しまなかったのでしょうか。そこに私は測り知れない伝統の力と、安定感を見い出したのである。創生期は苦しく、育て上げるのも更に苦しい。後者の苦しみを私はかつて、三年前に身をもって体験したように思う。

## 部員意識

部員のすべてが音楽家ではない。ましてや芸術家でもない。しかし、我々オケメンの学生生活は、もはやオケなくしては考えられない所まできている。私はこれまで、しばしば、日常のオケ活動に正常な参加を継続できないものはオケを去るべきだ、と云ってきた。そして今又、それを考え主張したい。オケは同好会ではなく、神大文化サークルのトップレベルに位置する音楽団体である。それ故ステージが最大関心事であってはならないと思う。

今、正に神大オケは安定感とそのムードが立ちこめているように思えてならない。彼らの残して行ったのはこれだけだ。しかし、この時期こそ確固たる基礎固めの必要な時であることを充分確認せねばならない。

安定ムードに酔いしれて無策にすぎると危険なことはないと思うか。そして、ここ二、三年の我々の活動には能がなかったらうか。必ずしもそれは言えないと思う。外観上は、昨年、一昨年と同じ名の行事を繰り返したにすぎないかも知れない。しかし私は、これこそが真の意味の地固めを呼ぶ近道だと確信している。

黙々と続けられる地味な日常生活こそオケの全てであらう。その意味で部員意識の向上をめざし、次の三点を特に強調してやまな

まずオケに、参加することである。一週わずか二回の練習。本来これでは不十分過ぎるまい。しかしこれがオケ活動の最低限度だと思ふ。次にチケットの配布である。我々のみの手でステージをもつと決めたからには、その成功のために全力を傾けるのでなければ意味がない。勿論演奏面に於ては、各自最大限の努力を払うであらう。しかし、チケットとなると全くでたらめにな

している。あゝでもない。こゝろでもない。いや、これが最良だ。こう思って組まれた年間行事と、内

部組織。それを私は忠実に守り抜いたと思う。そして今や、当時最良と思われていたあらゆる事に再検討を加えんとする方向が、ここ数ヶ月熟慮せられてきた。旧三商大音楽会の廃止、合宿形体の全面的改革、マナージャー陣の強化、オケ内部での新しい集まり計画、これでも早や無策どころではなく、策に漏れる危険さえはらんできた。

我々の一人でも手を抜けば、もはや会場に充分の聴衆を動員する事は不可能である。ここで得た収入のみが次年度への活動費なのだ。更に付け加えるならば充分な個人練習である。勿論、各人が独自の生活を持っており生活のすべてをオケにかけるという事は出来ない相談である。しかし伝統ある学生指揮者は読んだ字の如く学生であり素人である彼一人の力で曲が完成されるべくもなく又その要求するのは本末がいでである。学生という、アマチュアという、隠れみのにくるまって下手で結構、さあ聞いて下さい、ではあまりに能がなく、神大の名が泣こうというものである。

# 遂に廃止へ踏み切る

## 旧三商大交歓音楽会

才九回までを数えた旧三商大交歓音楽会も遂に廃止されることになった。この問題は、一昨年あたりより廃止論が有力となっていたものであるが本年四月の合同会議で再燃、各参加団体の発展的解消のもとに廃止されたものである。

去る六月十七日(月)神戸大学担当のもとに才九回旧三商大交歓音楽会を見い出せず、十八日の合同反省会が行われ、次いで十八日には、三本李グリー、オーケストラ合同の反省会が開かれた。その席上、四月の才一回合同会議のとき以来問題となっていた本音楽会の存続の可否に関して討論が行なわれた。そこでまず演奏会での時間的制約のため、グリークラブとオーケストラの分離が全会一致で決定された。

次にグリーとオケが別々に討論した。オケの場合一橋の廃止、市大の存続論と意見が完全に二分した。我が神大オケにおいてもこの問題について、演奏会前に部員総会を開き、綿密に議論した。そしてあらゆる角

深い音楽性のある演奏は不可能である。運営面

特に経済面で、ここ二、三年、赤字或いはそれに近い状態が続いており、アマチュア団体の場合、収益を上げる必要はないとしても、赤字を出すことは致命的欠点である。

三、その他  
六つの団体が集まっていた音楽会は時間的制約(演奏会、練習)が大きくなり、それはオケの場合とくに著しい。また各団体も既に成長して夫々固定した年中行事がつかまつって、三商大へ時間をさくことは部の年中活動の大きいブレキにもなりかねない。  
大阪市大の方でもこれに対する改善策もなく、結局オケによる三商大音楽会は廃止となった。しかし、これは後退というよりも、各部の個別的成長の結果による発展的解消とみた方がよいであろう。

・存続論  
他校との交流はクラブ活動発展の上には欠かせぬ条件であり、音楽的、経済的に不自由な面はあっても、それを補って余りあるものである。

・廃止論

一、音楽性  
三校が遠隔地より集まり、わずかに二三日の間に、しかも互いに顔さえ知らぬ多数の人間が多数大曲を手がけても、人に聞いてもらえないような

最近職務上の都合で勤務地を転向された選友会員の方々は下記の通りです。

- 吉田 昭 (L2)  
勤務地：大阪市東区北浜三丁目 TEL (231) 3441~3  
KK東亜興信所調査部
- 中本規久生 (E2)  
勤務地：P.O. Box 4040 Karachi, Pakistan  
Liaison office of Nissho Co. L.T.D. in Karachi
- 下村正利 (T10)  
勤務地：福井県敦賀市呉羽町  
呉羽紡績敦賀工場  
現住所：同、社宅E-334
- なお磯部浩 (B8)、鈴木肇 (S10) 両氏にお子様のお出きになるのもま近。

住所変更追加者  
辻 本 博 司  
神奈川県逗子市桜山九八八番地  
(十一月七日に御結婚なさいました。)

## 学舎統合着実に進む 医大合併も決定

現在発展途上にある我が神戸大学開いて、西部劇の舞台のような岩は、眼下に神戸市街を臨み、前方に壁を背景に新校舎が建ち、同じく大阪湾、背後に六甲、摩耶山を見渡せる素晴らしい環境の総合大学となせるため、学舎統合計画が着々と進められていく。

電車から見える山上のモダンな建物、それが昨年移転を終了した工学部の偉容である。その北側の鶴甲山には、山を切り

## 冬期合宿実施 定期の成功を祈りて

一昨年(昭和三十六年)六甲会館に於て行われた。定期演奏会のため合宿が今年も再び企画された。一昨年は本番当日まで合宿があったが、各人共合宿による疲労が甚しかった。そのために平常の実力が、充分には発揮されず、関係者一同を大いに悔まれる結果となった。

昨年は合宿抜きで練習で精神的な負担を少しでも軽くするようにし向かつ練習回数をふやすことで諸々の欠点を少しでも補うように努力した。ところがそのマネージャーの親心にもかかわらず部員の積極的協力が得られず本番の間際になってやっと練習場がいっぱいになったという状態であった。

えられないという結論に達し定演の少なくとも一週間前には終る短期間の合宿を計画した。各地調査の結果、昨年春甲南大学オーケストラの使用した芦屋ユースホテルが浮かび上が、交渉の結果この地に決定した。

奥池ユースホテルはめぐまれた環境の中に、近代建築を誇り、五、六人一組に一部屋を与えられ、かなり広い食堂練習場をもっている。しかも芦屋市との交渉の結果十二月一日から十二月三日までの三日間の貸切りに成功した。合宿については各種問題も含んであるが先達諸氏及び部員一同の協力があれば必ずや合宿の成功を望め、ひいては定期演奏会の成功にもつながるであろう。これからの数少ない日数を大いに有効に使うべく努力したいものである。

も、現在の計画では、学舎は移転せず、現在の学舎をそのまま利用するので、医科という時間の都合もあり今の所、合併の話はまだとのことである。

このように学舎統合は着々と進んでいるが、オケとしての一番の望みである部室を約束する学生会館の建設は予算の都合上、流産となり、まことに残念である。最後に神大内部については、十二月十五日をもって現学長福田敬太郎氏の任期が終るため、十二月初旬に学長選挙が行なわれる。

### やっと落ち着きました

- 宮出文子 教育学部
- 神戸市立白川小学校
- 中村節子 教育学部
- 神戸市立若宮小学校
- 藤田智恵子 教育学部
- 塩原女子高校
- 高崎紀子 教育学部
- 兵庫県播磨高等学校
- 尾上正紀 法学部
- 新三菱重工業株式会社
- 中島良紀 経営学部
- 不二電化工業株式会社
- 富田肇 経営学部
- 新日本窒素肥料株式会社

### やっと決まりました。

- 倉持建三 工学部(土木科)
- 株式会社駒井鉄工所
- 八島薫 工学部(機械科)
- 石本信子 教育学部
- 神戸市職員
- 俵美恵 教育学部
- 神戸市職員
- 西沢陽子 教育学部
- 兵庫県職員
- 吉岡安衛 教育学部
- 新興産業株式会社
- 松井敏郎 理学部数学科
- フアコム株式会社
- 杉本比 理学部生物科
- 大塚製菓
- 富田良吉 工学部建築科
- 阪急不動産
- 佐野芳昭 工学部電気科
- 神戸工業
- 橋本見一 工学部機械科
- 住友金属工業
- 伊藤肇 工学部土木科
- 三井造船
- 曾野健三 工学部工業化学科
- 日本板硝子
- 笹井邦彦 工学部土木科
- 大阪市役所
- 曾根雅美 経済学部
- 東海銀行

## 編集後記

一、二年前より計画しつつ立ち消えになっておりました『響友会報』もやっと初号を発刊する運びとなりました。戦前の会員の原稿が集まらず、ちよっと淋しい感があるので、今後は是非その点に重点をおきたいと思っております。未熟な編集者の手に依るもので

会員の皆様には充分満足頂けるものとならなかったこと、深くお詫び申し上げます。尚本紙は現在の計画では、年一回発行致します。編集委員会

- 委員長 曾野健三(工四)
- 委員 坂本伸哉(文二)
- 大田輝史(経営二)
- 大軒護(法二)
- 平島直子(文一)